

2026年6月8日

## リコー、Dify アプリマーケットプレイスの社内運用を開始 ～約 9,300 の社内アプリをグループ内で共有・再活用し、AI の市民開発を加速～

株式会社リコー（社長執行役員：大山 晃）は、生成 AI アプリケーション開発プラットフォーム「Dify（ディファイ）」を活用したコミュニティ型 Dify アプリマーケットプレイスを開発し、2026 年 6 月から社内運用を開始します。あわせて、今夏から顧客向けに提供を開始する予定です。

本プラットフォームは、リコーグループ内で業務に活用されている約 9,300 のアプリケーション（2026 年 5 月時点）の中から、特に有益性が高いアプリを共有し、検索・ダウンロードを可能にするほか、要望ヒアリング AI エージェントによるアプリ自動生成や、コミュニティ型 Q&A サポート機能を備えています。業務ノウハウを含むアプリを共有・活用することで、AI を活用した業務改革をさらに促進するとともに、社内実践を広く展開することで、業種・業務ごとに適した「使える・使いこなせる AI」の提供を目指します。

### 主な機能と特徴

#### 1. 社内外の知見を共有するアプリ基盤

現在リコーで運用中の約 9,300 のアプリを起点とし、利用者が業務課題に応じたアプリを容易に検索・活用できるマーケットプレイスを構築します。社内で蓄積された業務ノウハウの横展開を促進します。

#### 2. AI エージェントによるアプリ自動生成

ユーザーが作成したいアプリの要望を AI エージェントに伝えるだけで、AI エージェントが対話を通じて要件を整理し、アプリ本体から利用マニュアル・導入手順までを一括で自動生成します。これにより、アプリの開発・導入にかかる負荷を大幅に低減します。

#### 3. コミュニティ型 Q&A サポート機能

アプリの利用・開発に関する疑問を、ユーザー同士の対話で解決できるコミュニティ型 Q&A 機能を搭載。さらに Q&A 支援 AI エージェントが議論内容を把握し、ユーザーから指示があったときには、AI エージェントが回答します。ユーザー同士の対話を中心としながらも、AI エージェントが蓄積した知見も活用することで、人と AI エージェントが協調しながら業務を行う仕組みを提供します。

#### 4. インセンティブ制度の導入（検討中）

アプリ公開や Q&A 対応への貢献に応じてポイントを付与するインセンティブ制度の導入を検討しています。貯めたポイントに応じて、開発者に対してより高機能なアプリを開発できる環境を特別提供するなどのインセンティブを提供予定です。これにより、開発者とユーザーの積極的な参加を促し、プラットフォーム全体が継続的に活性化する仕組みを実現します。

### 今後の展望

2026 年 6 月に社内展開を開始し、7 月以降に一部顧客向けに α 版の提供を予定しています。リコーは、

株式会社リコー <https://jp.ricoh.com/>

報道関係のお問い合わせ先 広報室 TEL：050-3814-2806（直通） E-mail：[koho@ricoh.co.jp](mailto:koho@ricoh.co.jp)

本プラットフォームを通じて AI 技術とコミュニティの力を活用し、顧客の業務効率化と新たな価値創出を支援するとともに、持続可能な社会の実現に向けて貢献してまいります。

### ■リコーグループでの Dify の活用と市民開発について

Dify は、LangGenius, Inc.が開発したオープンソースの LLM アプリ開発プラットフォームです。RAG(検索拡張生成)エンジンを使用して、AI エージェントから複雑な AI ワークフローまで、生成 AI を活用したアプリケーションをノーコードで開発・運用できます。

リコーグループでは、国内グループ社員約 3 万人が利用可能な Dify 環境を整備し、各部門および個人が業務に即したアプリケーションを開発しています。これまでに約 9,300 のアプリが作成されるなど、AI の市民開発を推進してきました。これらの実践で得た知見をもとに、公式販売・構築パートナーとして、Dify のライセンス提供や、導入支援、関連ソリューションの展開を行っています。

### ■リコーの AI 開発について

リコーは、1980 年代に AI 開発を開始し、2015 年からは画像認識技術を活かした深層学習 AI の開発を進め、外観検査や振動モニタリングなど、製造分野への適用を行ってきました。2021 年からは自然言語処理技術を活用し、オフィス内の文書やコールセンターに寄せられた顧客の声(VOC)などを分析することで、業務効率化や顧客対応を支援する「仕事の AI」の提供を開始しました。

さらに、2022 年からは大規模言語モデル(LLM)の研究・開発にもいち早く着手し、2023 年 3 月にはリコー独自の LLM を発表。その後も、700 億パラメータという大規模ながら、オンプレミス環境でも導入可能な日英中 3 言語対応の LLM を開発するなど、お客様のニーズに応じて提供可能なさまざまな AI の基盤開発を行っています。また、画像認識や自然言語処理に加え、音声認識 AI の研究開発も推進し、音声対話機能を備えた AI エージェントの提供も開始しています。

### ■関連ニュース

「Dify Essential/Standard」ライセンスと、Dify アプリケーションの無償テンプレートを提供開始

[https://jp.ricoh.com/release/2026/0601\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2026/0601_1)

リコージャパン、Dify アカデミック版と教育支援サービスを提供開始

[https://jp.ricoh.com/release/2025/0630\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2025/0630_1)

リコー、生成 AI アプリ開発プラットフォーム「Dify」開発元の LangGenius, Inc.と販売・構築パートナー契約を締結

[https://jp.ricoh.com/release/2024/1217\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/1217_1)

リコー、生成 AI アプリ開発プラットフォーム「Dify」を活用した社内実践を開始し、AI の市民開発に向けた取り組みを加速

[https://jp.ricoh.com/release/2024/1128\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/1128_1)

### ■関連情報

Dify

<https://www.ricoh.co.jp/products/list/dify>

※社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

---

## ｜ リコーグループについて ｜

リコーグループは、世界約200の国・地域で、AIをはじめとする先進テクノロジーと、長年培ってきたプリンティング領域の強みを基盤に、ワークプレイスにおける業務変革を支援するサービス・ソリューションを提供しています。また、商用・産業印刷事業や、インクジェット技術を応用した新たなソリューションの展開を通じて、お客様の価値創出を支えています(2026年3月期グループ連結売上高2兆6,083億円)。

“はたらく”に歓びを 創業以来90年にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。<https://jp.ricoh.com/>